

令和7年度 地域ケア推進会議資料



長寿支援課

本日の内容

導入 地域ケア会議の目的

- 1 聖籠町の高齢者に関するデータの推移
- 2 地域ケア個別会議から抽出した課題
- 3 介護予防に関する事業の取り組み
- 4 生活支援体制整備事業に関する取り組み
- 5 認知症事業に関する取り組み
- 6 医療と介護の連携に関する取り組み

導入 地域ケア会議の目的

地域包括ケアが必要になる背景

2025年になっても…

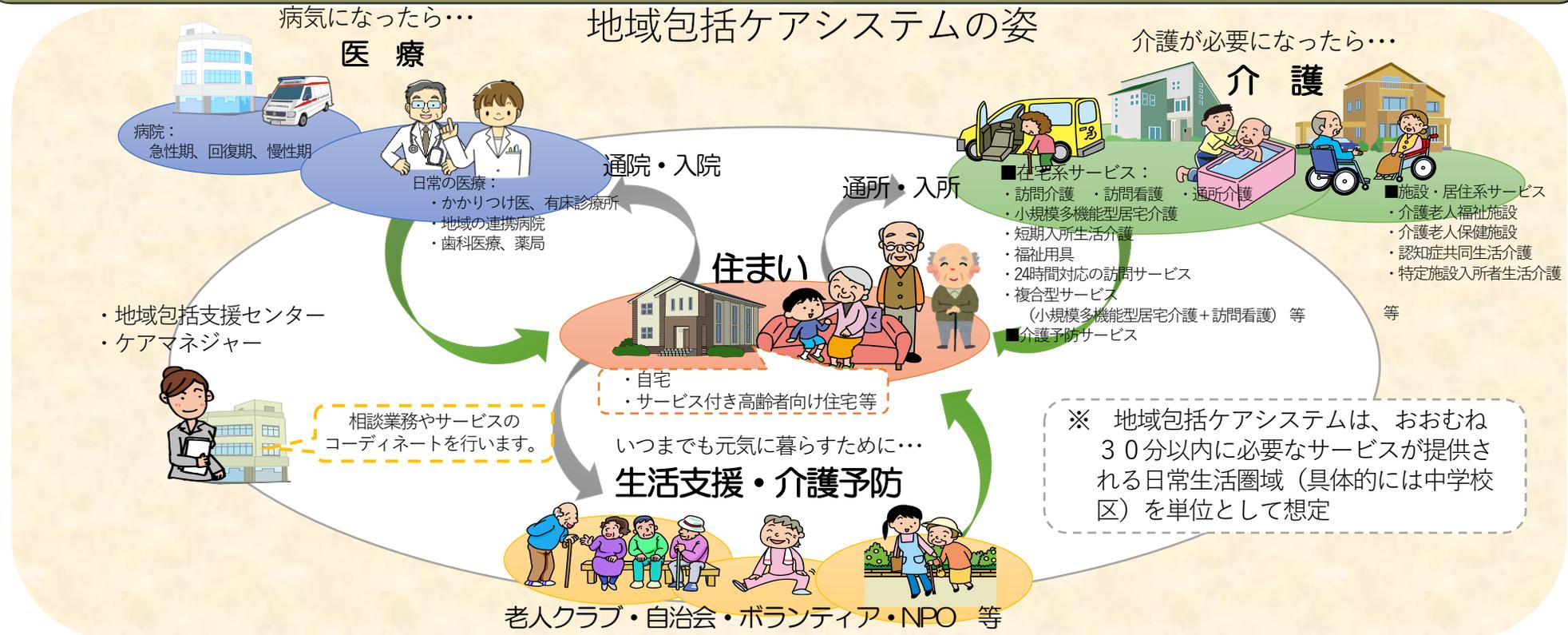
- 人口減少
- 少子・高齢化
- 一人暮らし高齢者の増加
- 要介護、認知症高齢者の増加
- 医療費や介護給付費の増大
- 死亡者数の増加
- 介護人材の不足等・様々な課題

病気や介護が必要になっても安心して住み続けられる
地域づくりや体制が必要＝地域包括ケアシステム

健康寿命社会の実現

地域包括ケアシステムの構築

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



地域ケア会議とは

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。

具体的には、地域包括支援センター等が主催し、

- 医療、介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める。
- 個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を明確化する。
- 共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげる。

地域ケア個別会議

地域包括支援センターでの開催
(高齢者の個別課題の解決)

- 多職種の協働による個別ケース（困難事例等）の支援を通じた
- ①地域支援ネットワークの構築
 - ②高齢者の自立支援に資するケアマネジメント支援
 - ③地域課題の把握
- などを行う。

《主な構成員》

自治体職員、包括職員、ケアマネジャー、介護事業者、民生委員、OT、PT、ST、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士その他必要に応じて参加

※直接サービス提供に当たらない専門職種も参加

地域課題の把握

④ 地域づくり・資源開発

⑤ 政策形成

介護保険事業計画等への位置づけなど

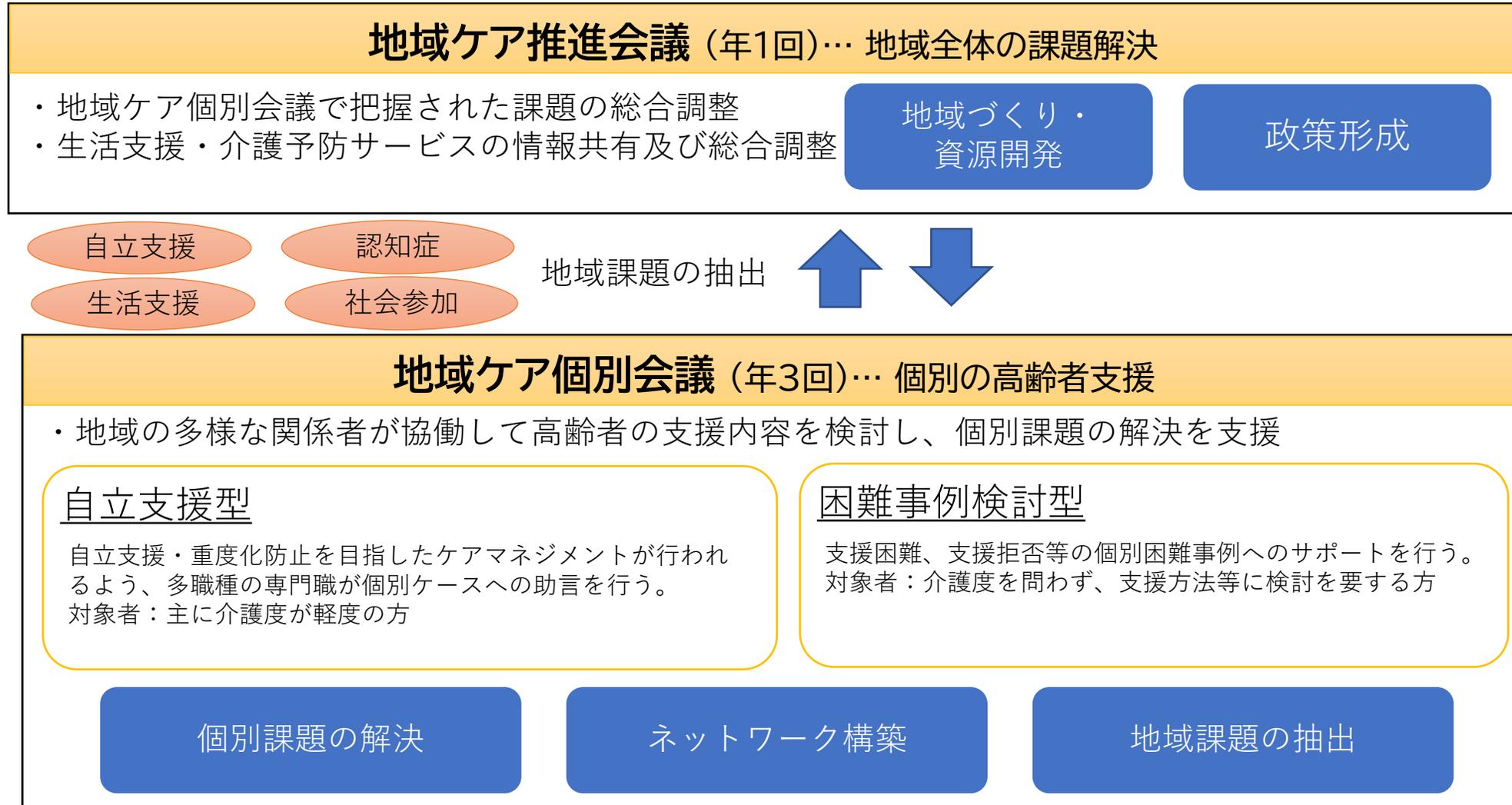
市町村での開催
(地域課題を解決するための社会基盤の整備)

地域ケア推進会議

地域ケア会議の体系図

○目的

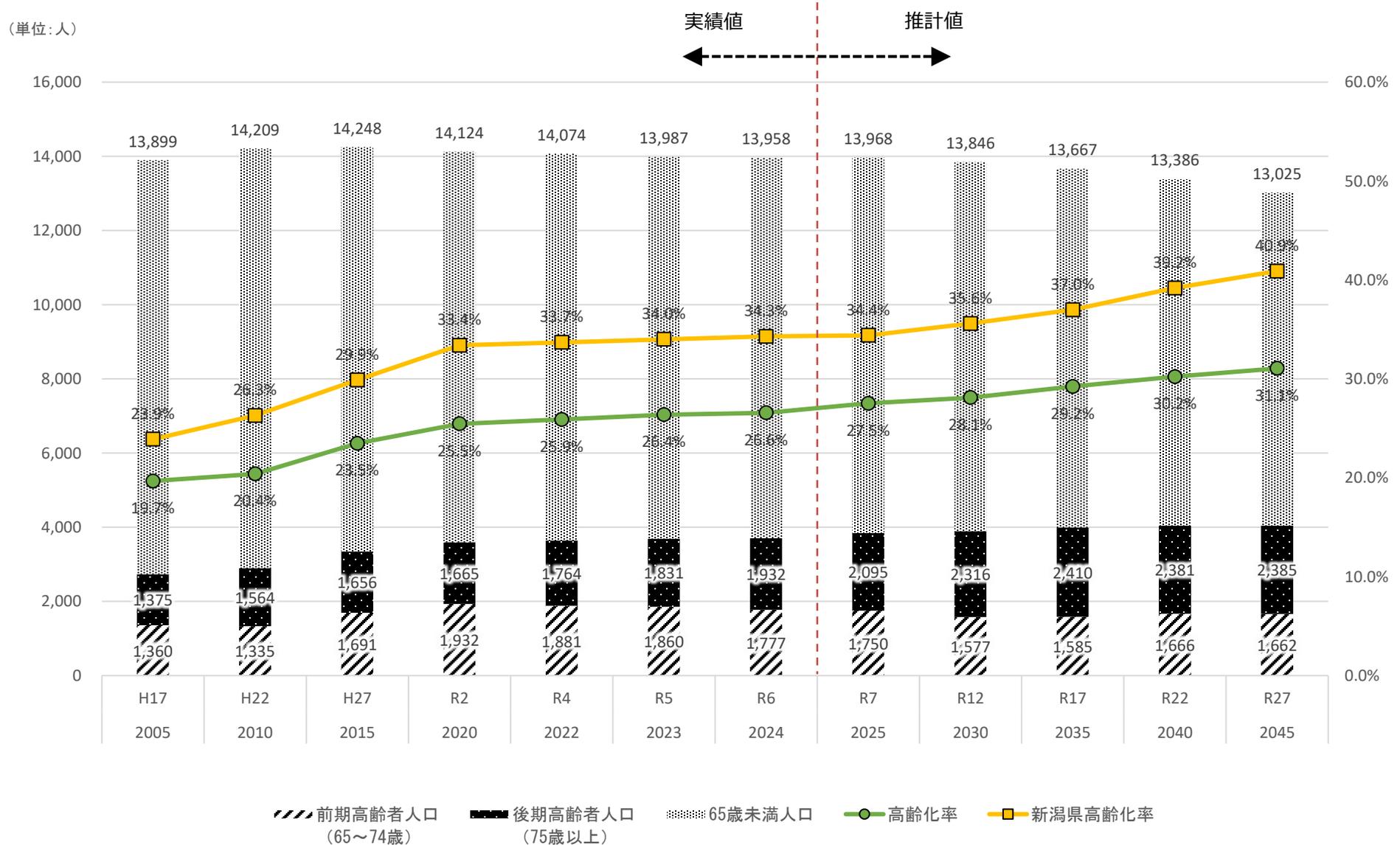
高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を継続していくことができるよう、高齢者サービス及び地域における多様な社会資源による支援体制を構築する。



1 聖籠町の高齢者に関するデータの推移

聖籠町の人口推移

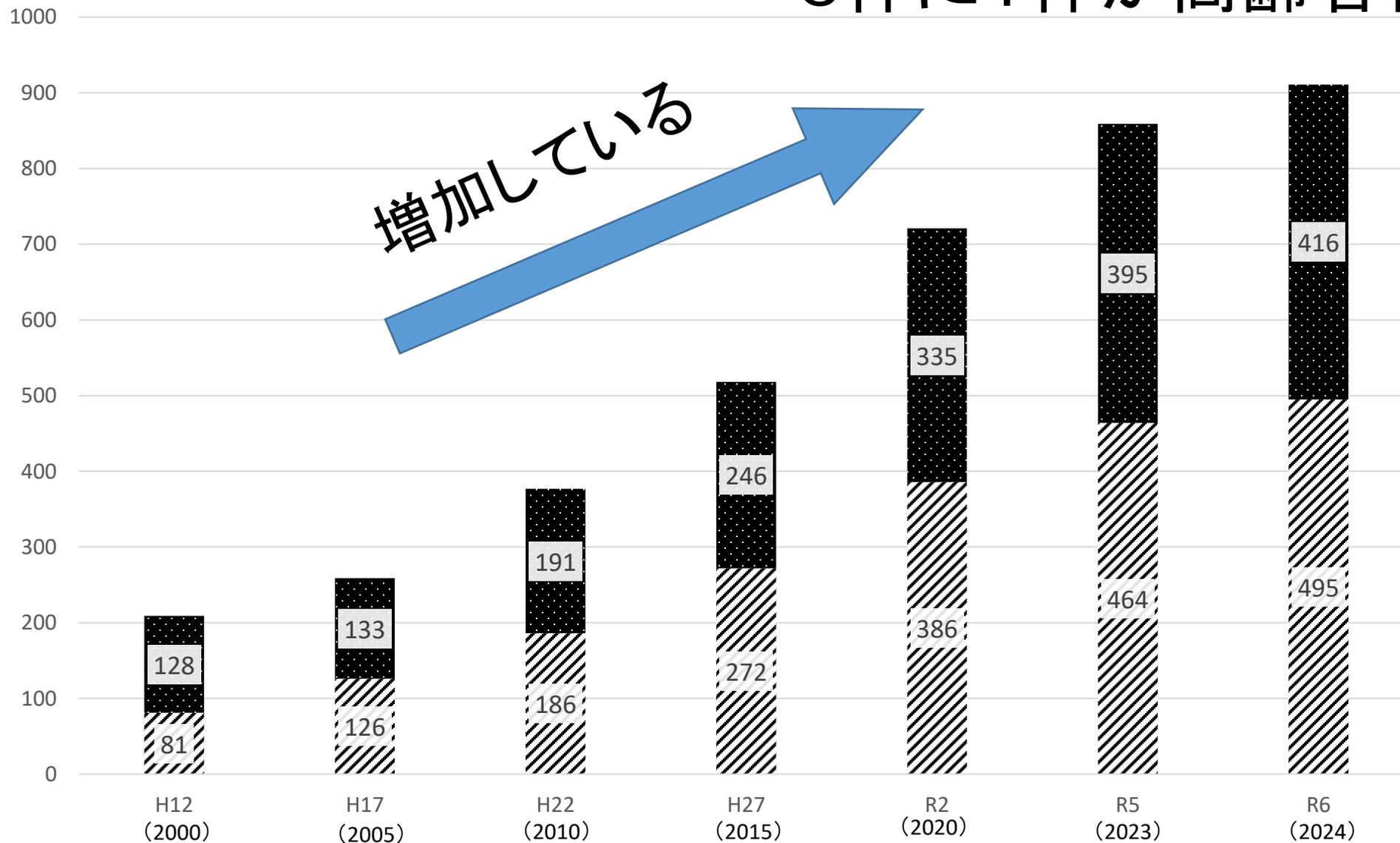
○高齢者人口が増加する一方で、介護の担い手となる世代の人口が減少



聖籠町の高齢者世帯の推移

(単位:世帯)

6件に1件が高齢者世帯



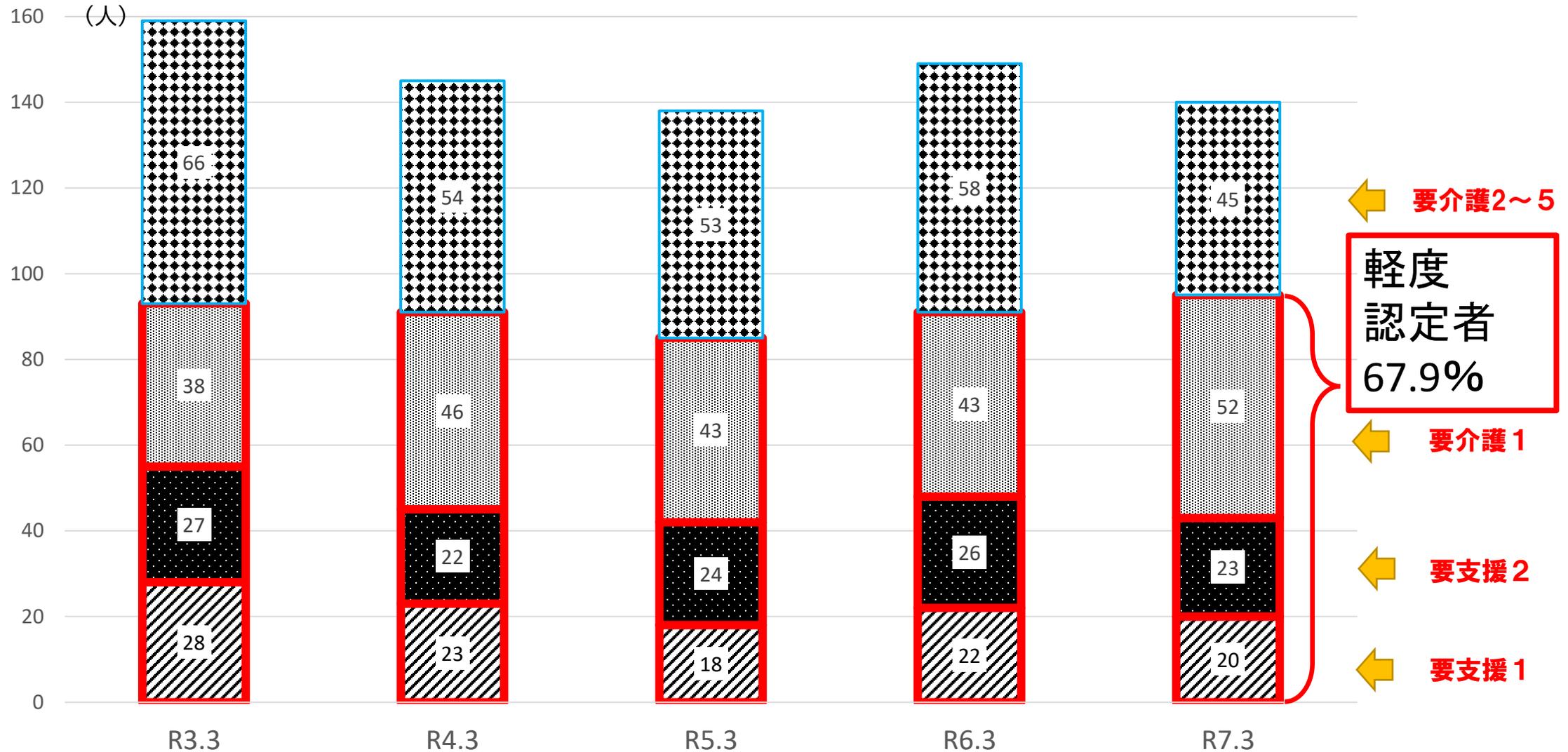
〰 単身高齢者世帯

■ 高齢者のみの世帯

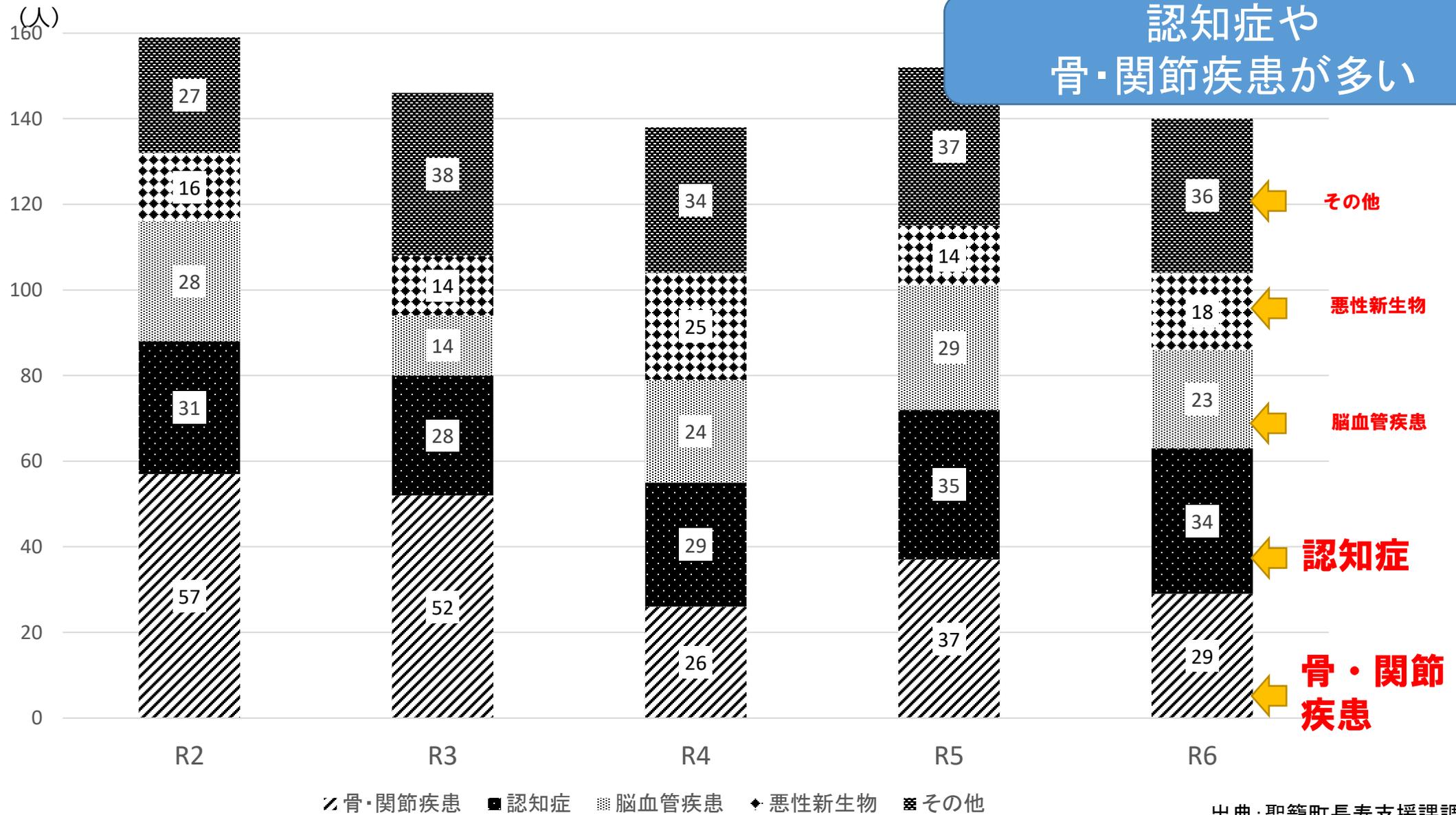
出典: 聖籠町の保健福祉の動向

聖籠町の新規要介護（要支援）認定者の介護度別の状況

○ 新規認定者の約7割弱が要介護1までの軽度認定者



聖籠町の新規要介護（要支援）認定者の原因疾患の状況



出典：聖籠町長寿支援課調べ

2 地域ケア個別会議から抽出した課題

■地域ケア個別会議

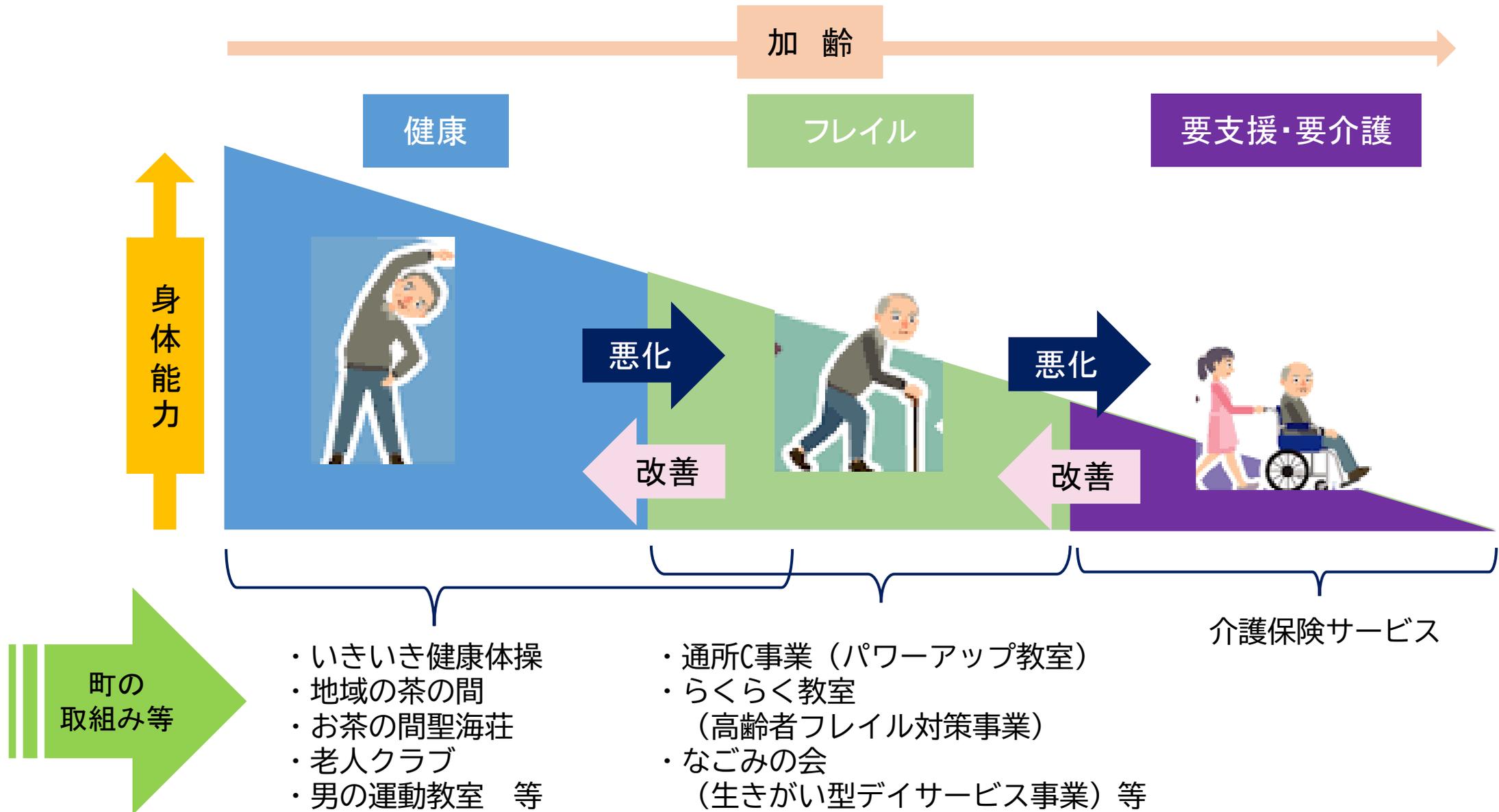
R7/5/27（火）、R7/10/9（木）、R8/2/3（火） 計3回実施予定

課題

- (1) **歯科受診・口腔ケアに対する意識**（歯科受診の必要性の認識不足）
 - ⇒①R5年度から一般住民向けに口腔ケア指導
 - ②R6年度から介護支援専門員向けに歯科衛生士からの研修実施
- (2) **食事に対する意識**（タンパク質を中心とする栄養摂取の意識）
 - ⇒R6年度から介護支援専門員向けに町管理栄養士からの研修実施
- (3) **通いの場に参加を希望しない方への介護予防の取り組み**
- (4) **町の介護予防方針の伝達不足**
 - ⇒町の介護予防方針について事業所への啓発活動の実施

3 介護予防に関する事業の取り組み

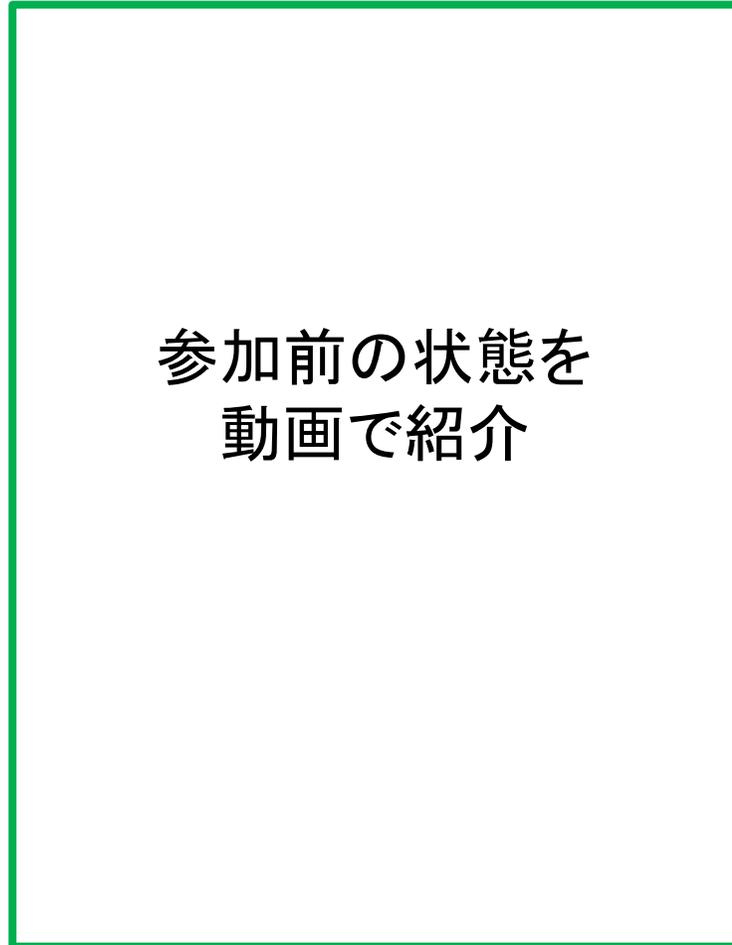
フレイル（虚弱状態）の改善のために



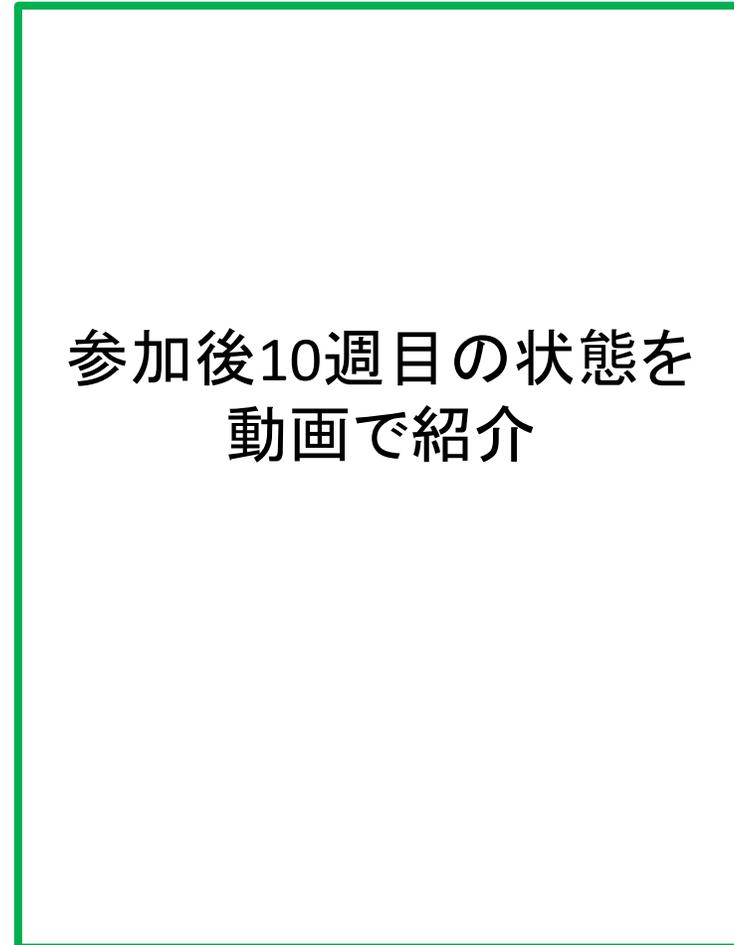
目的

- (1) 日常生活動作の「できない・できにくい」を「できる・もっとできる」になるように目指す
- (2) サービス利用前に利用者の目標を設定、合意形成
- (3) 運動・栄養・口腔ケアの連動した働きかけ
- (4) 毎月、生活機能の評価を行いつつ目標達成を支援
- (5) セルフマネジメント能力の向上
※利用者の行動変容を起こす

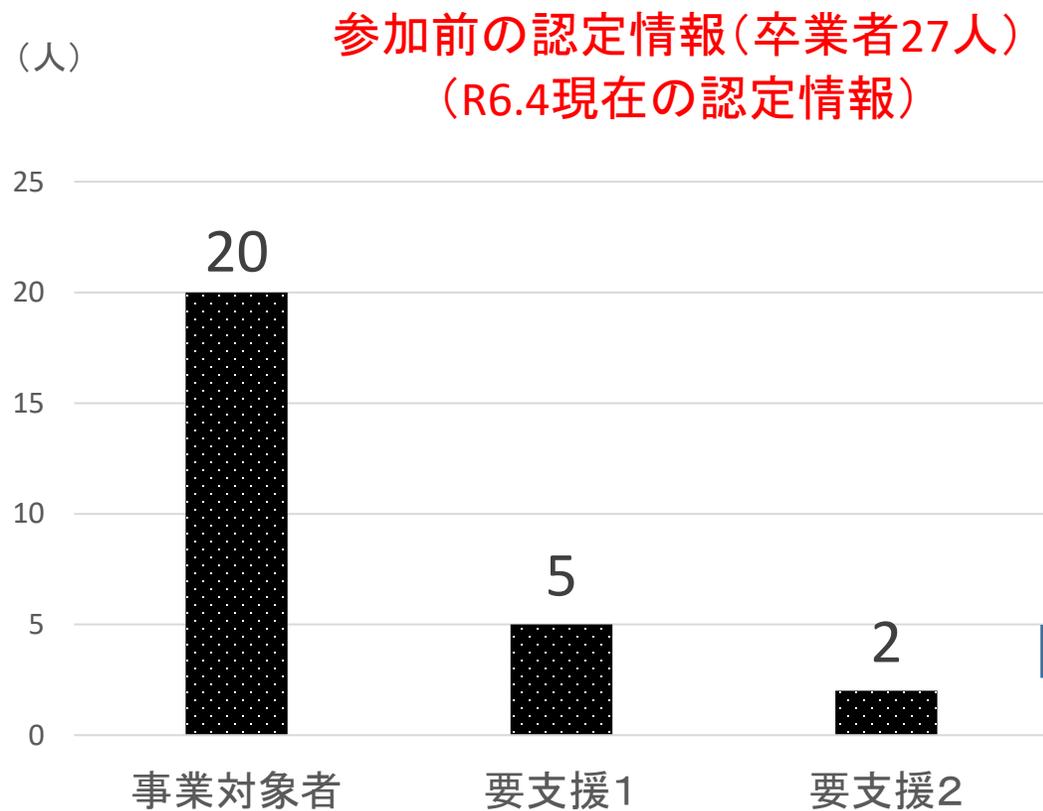
参加前



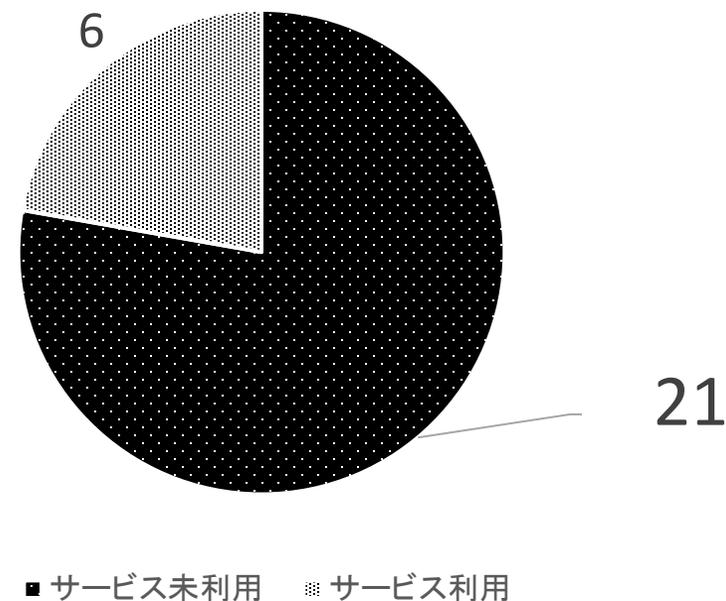
10週目後



通所型サービスC事業「聖籠町パワーアップ教室」参加者の認定情報及び現状



教室卒業後モニタリングでの達成状況
(27人)
(R7.6現在)



※27人中21人が現在もサービスを利用せず、改善状況を維持している。

課題

- (1) **利用までの合意形成困難**（参加推奨者向け）
⇒教室参加者のビフォーアフターを動画で視聴できるようタブレットの活用
- (2) **本サービスの事業内容や効果の広報・周知・普及啓発**
⇒通いの場などでのPR、介護予防講演会の開催（R7年度は9/19開催）
- (3) **歯科受診・口腔ケアに対する意識 ★**
- (4) **食事に対する意識 ★**
- (5) **ニーズ増大に向けた運営体制の見直し**
⇒受け入れ可能枠増加のための方策を検討
- (6) **生活動作の維持に関心はあるが地域の運動教室や茶の間に行かない方向けの資源創出**（教室卒業後の交流の場 等）

地域ケア個別会議から
抽出した課題と同じ

4 生活支援体制整備事業に関する取り組み

現状

- **地域の茶の間など** ≪月1回程度≫

→ R7.10月末現在 15カ所（17集落 + 聖海荘）

- **いきいき健康体操** ≪月1回程度≫

→ R7.10月末現在 23カ所（27集落 + 任意団体3カ所）

- **自主体操グループ** ≪月2回程度≫

→ R7.10月末現在 1カ所（1集落）

フリーサロンとして
R7.8.1～開始！

課題

(1) お茶の間に参加したいが、歩いていけない

⇒R5.11～お茶の間でのボランティア移送保険の活用支援を開始

R7.10月末現在、4か所のお茶の間で11台を参加者の移送に利用中

(2) 通いの場の頻度が少ない

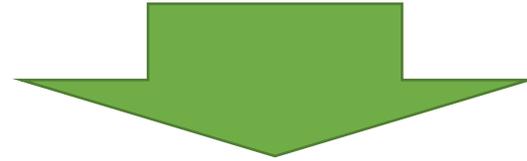
(3) 通いの場の運営が負担となっている

(4) 地域の茶の間がない集落の住民の通いの場をどうするか

⇒R7.8.1～フリーサロン『お茶の間聖海荘』を開始

新しい通いの場『お茶の間聖海荘』の紹介

「地域のお茶の間が集落にない」「集落にとらわれずに交流したい」



『お茶の間聖海荘』の開始

令和7年8月からフリーサロンとして開始。

カラオケレク、移動販売車訪問などイベント開催。

※移動支援対策としての効果も

- ・ 送迎バスを運行
- ・ 移動販売車



現状

- **聖籠エコミニバス運賃の減免**

⇒75歳以上の方は半額の料金で利用できる

- **高齢者タクシー利用料金助成事業**

⇒75歳以上で運転免許証を保有していない在宅の方向けに
1枚700円のタクシー利用助成券を年間で最大36枚交付

※毎年申請必要

課題

(1) 買い物・通院の移動手段

- ⇒①高齢者タクシー利用料金助成事業に関するアンケート実施
 - 運転免許証を保有していない方の困りごとを把握することを目的としてアンケートを実施
- ②地域の茶の間向けに町エコバスを利用した活動の支援
 - 今後車に乗れなくなった時、エコバスを利用できるように生活支援コーディネーターによる支援を実施。
 - 【支援例】エコバスで商業施設へ（チェーン喫茶店やスーパーを利用）

(2) 通いの場への移動手段

- ⇒①地域の茶の間でのボランティア移送保険
- ②お茶の間聖海荘の送迎バス運行 → 11月から学区指定せずに町内全域運行

5 認知症事業に関する取り組み

現状

- 認知症の人を介護する家族のつどい（月1回）
- 認知症カフェ「オレンジカフェなごみ」（月1回）
- 認知症サポーター養成講座（随時）⇒3小学校・一般向け・茶の間等
- 認知症講演会（年1回）⇒R7/11/13（木）講師：有田病院 有田正知医師
- 認知症相談会（年3回）
⇒認知症の人や認知症が疑われる方の家族が直接医師に相談できる場を提供
R7/8/4（月）、R7/12/9（木）、R8/3/9（月） 計3回実施予定

課題

(1) 認知症カフェに認知症当事者の参加が少ない

⇒R7/11/28に初めて「グループホームせいろう」で認知症カフェを共同で実施予定

(2) 認知症カフェの参加者が増えない

⇒毎月広報とLINE配信でお知らせを掲載

(3) 認知症事業に関する普及啓発の不足

⇒①ホームページに認知症事業に関する情報をR7年度中に掲載予定
②認知症の理解を深めるための啓発活動を地域の茶の間などの依頼に対応するだけでなく、計画的に実施できるよう検討

6 医療と介護の連携に対する取り組み

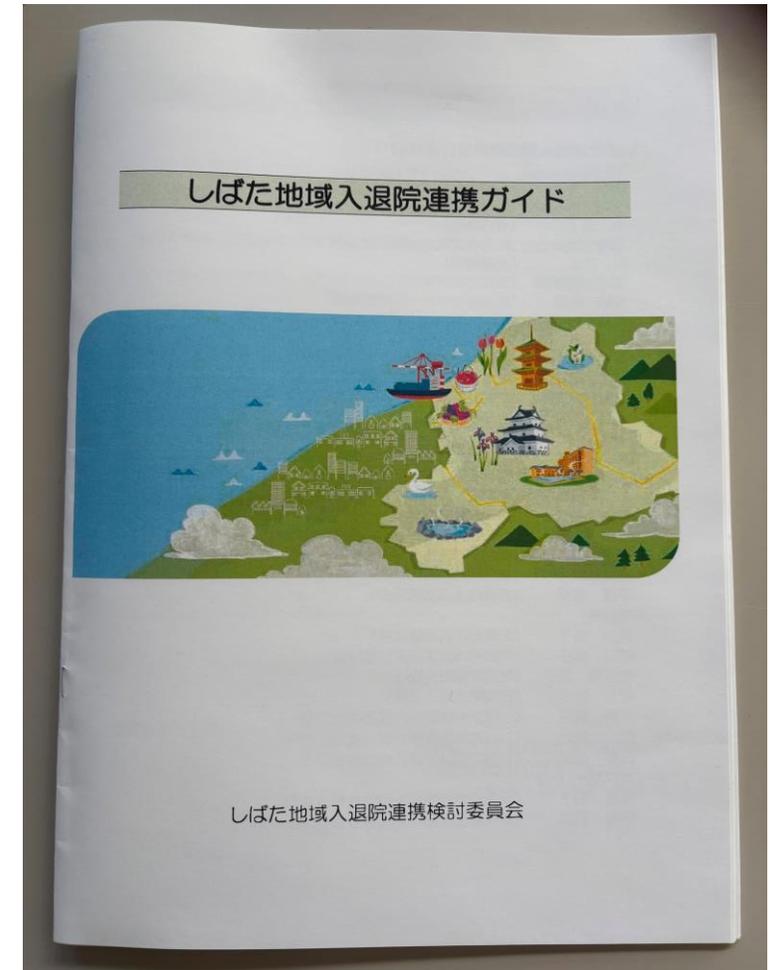
現状

- 入退院支援について

関係機関との強化のために、昨年度しばた地域入退院連携ガイドを作成

- 看取りについて

地域のお茶の間等に「在宅医療と人生会議」
(終末期に残された人生をよりよく生きるための
こと) についての出前講座を実施



課題

(1) 入退院支援に対する意識の違い

⇒事例検討を用いた研修会を実施

(2) 人生会議※に対する普及啓発の不足

⇒R7/7/5に講演会を実施

※ もしものとき、本人が望む医療やケアについて前もって考え、
医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組